

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	音楽	種目	合唱
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	こうえきざいだんほうじん しんこくりつげきじょううんえいざいだん			
	制作団体名	公益財団法人 新国立劇場運営財団			
	代表者職・氏名	理事長 銭谷眞美		団体ウェブサイトURL	
				https://www.nntt.jac.go.jp/	
	制作団体所在地	〒	151-0071	最寄駅(バス停)	京王新線 初台駅
		東京都渋谷区本町1丁目1番1号			
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です			
	ふりがな	しんこくりつげきじょうがっしょうだん			
	公演団体名	新国立劇場合唱団			
	代表者職・氏名	制作団体に同じ		団体ウェブサイトURL	
				https://www.nntt.jac.go.jp/opera/chorus/	
	公演団体所在地	〒	151-0071	最寄駅(バス停)	制作団体に同じ
		制作団体に同じ			
	制作団体 設立年月	平成5年 4月			
	制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
		会長:筒井 義信 理事長:銭谷 眞美 芸術監督:大野 和士(オペラ)		会長1名、顧問7名、評議員24名、理事20名(うち理事長1名、常務理事3名)、監事2名、会計監査人2名、芸術監督3名、芸術参与1名、研修所長3名、職員160名等	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く		本事業担当者名	尾ノ井康太
	経理処理等の 監査担当の有無	有		経理担当者	総務部長 山下 登
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス			電話番号
		桑原貴 kuwahara_t0530@nntt.jac.go.jp 、 尾ノ井康太onoi_k1144@nntt.jac.go.jp 、 朝日美佳asahi_m2105@nntt.jac.go.jp 、 田中晶子tanaka_a0801@nntt.jac.go.jp 、 佐渡慶一郎sado_k1003@nntt.jac.go.jp 中島美琴nakashima_m1437@nntt.jac.go.jp			0353525724

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	1993年4月 財団法人第二国立劇場運営財団設立。 1995年4月 劇場名が新国立劇場と決定し、同時に名称を財団法人新国立劇場運営財団と改める。 1997年10月 新国立劇場オペラ「建・TAKERU」にて開場、以後オペラ・舞踊・演劇といった現代舞台芸術の自主公演を継続的に上演する。 1998年4月 1998/99シーズンより新国立劇場合唱団を組織、オペラ「蝶々夫人」出演。 2012年4月 公益財団法人に移行。公益財団法人新国立劇場運営財団となる。
	学校等における公演実績	2008年6月、11年12月、15年11月、24年11月、三鷹市明星学園小学校音楽鑑賞会 2013年5月 松本市内全中学校 芸術鑑賞会 2015年6月 上田市内高等学校 芸術鑑賞会 2016年6月 長野市内高等学校 芸術鑑賞会 2017年5月 長野市内中学校 芸術鑑賞会 2018年6月 松本市内小学校 芸術鑑賞会 2023年6月 東京都国分寺高等学校 芸術校鑑賞会 2009年度より現在まで、文化庁本事業に参加
	特別支援学校等における公演実績	2010年1月 広島県広島特別支援学校 2012年9月 青森県立青森若葉養護学校 2013年2月 北海道白糠養護学校 2015年9月 神奈川県立中原養護学校、愛知県立豊橋特別支援学校 2016年6月 神奈川県立中原養護学校 2017年11月 滋賀県立野洲養護学校 2024年6月 長野県稲荷山養護学校 2024年6月 愛知県立佐織特別支援学校

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://www.nntt.jac.go.jp/opera/chorus/education/	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	なし
		PW:	なし

一般区分・特別エリア区分共通										
No.2(実演芸術)										
別添		あり								
【公演団体名 新国立劇場合唱団 】										
本公演・ワークショップの内容	対象		小学生(低学年)		○		小学生(中学年)		○	
			小学生(高学年)		○		中学生		○	
	企画名		舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演） 合唱特別コンサート							
	企画のねらい		歌の歴史的な解説や様々な種類の声を使った楽曲を横断的に取り上げることで、音楽表現に興味をもっていただき、更にオペラでは「舞台芸術」を理解し、表現することの意味や音楽を聴く楽しみを体験してもらいたいと考えております。							
	演目概要・演目選択理由		◎各校の校歌演奏(混声四部合唱に編曲):演奏会の導入に当該校の校歌を合唱で演奏することによって、プログラムへの関心を高めます。身近にある歌が合唱になることによって歌の多様性を感じていただくことも狙いのひとつとします。 ◎日本の歌・世界の歌・オペラの世界 児童に親しみのある曲を合唱で聴くことによって歌うことの楽しみを感じていただきます。高い演奏技術で世界的に評価されている「新国立劇場合唱団」の演奏で様々な合唱を堪能していただきます。その演奏をもとに歌や合唱の歴史、クラシック音楽やオペラの話を取り入れていきます。 新国立劇場合唱団の演奏の基盤である「オペラ」においては、小学生に対して「歌いながらする劇」というような解説、中学生に対しては歴史・成り立ちを簡単に説明するとともに、オペラが「音楽」「演技」「言葉」などの複合要素で構成されている舞台芸術であることも理解していただきます。 ◎総合ワークショップ～合同演奏:事前に行うワークショップを基に「全校生徒」で各校の「校歌」の歌唱指導、合唱指導を行います。事前のワークショップから引き続き発声方法の指導、 その後に各校生徒児童にとって将来にわたって歌われるであろう「校歌」(各校の事情により愛唱歌でも可能)の歌唱、合唱指導となります。 ◎アンコール曲(曲目未定)							
	児童・生徒の参加または体験の形態		演奏会の冒頭では「校歌」を混声四部合唱に編曲して演奏いたします。プログラム後半の総合ワークショップ～合同演奏では各校校歌(愛唱歌も可能)を、指導しながら一緒に演奏することにより、より身近に音楽の素晴らしさを体験していただきます。							
	児童・生徒の参加可能人数		本公演				参加・体験人数目安		10名～1,000名	
							鑑賞人数目安		10名～1,000名	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付		新国立劇場合唱団 舞台芸術等総合支援事業プログラム(小学校 低学年・中学年・高学年 及び中学生向け) 【プログラム構成】 1. 校歌演奏 2. 日本の歌・世界の歌・オペラの世界 童歌「ほたるこい」(女声合唱) 民謡「ソーラン節」(男声合唱) 日本の名歌(混声合唱) ベートーヴェン作曲「交響曲第九番」より抜粋 マスカーニ作曲「カヴァレリア・ルスティカーナ」より オレンジの花は香り(混声) チャイコフスキー作曲「エウゲニ・オネーギン」より 村娘たちの歌(女声) ウェーバー作曲「魔弾の射手」より 狩人の合唱(男声) ヴェルディ作曲「椿姫」より 乾杯の歌(混声) 3. 学校との合同演奏 学校校歌、学校選択曲など								
		公演時間		90		分				
出演者		指揮:富平恭平・水戸博之・平野桂子 ピアノ:平塚洋子・古瀬安子 合唱:新国立劇場合唱団 30名(メンバー表別添)								
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度／名		富平恭平(指揮者):予定 東京藝術大学音楽学部指揮科卒業。群馬交響楽団、東京シティフィルハーモニック管弦楽団、千葉交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、東京ニューシティー管弦楽団、東京交響楽団を指揮している。オペラでの活動が多く、多数の公演で副指揮者、合唱指揮者、コレペティトゥア、ピアニスト、プロンプターなどオペラに関わるあらゆる仕事をつとめている。新国立劇場合唱団指揮者。 水戸博之(指揮者):予定 東京音楽大学作曲指揮科(指揮)卒業。これまでに札幌響、仙台フィル、山形響、新日本フィル、東京響、東京フィル、日本フィル、読売日本響、神奈川フィル、名古屋フィル、中部フィル、京都市響、日本センチュリー響、広島響、九州響等に客演。また合唱指揮者として新国立劇場合唱団と共演を重ね、多くのオペラ公演などで合唱指揮を務めた。東京混声合唱団常任指揮者。 平野桂子(指揮者):予定 洗足学園音楽大学器楽科卒業、同附属指揮研究所修了。Prayner Konservatorium Wienにて優秀者演奏会に選抜、飛び級、ディプロムを最高位取得。ウィーン・シェーンブルン宮殿にてモーツァルト作曲「レクイエム」に合唱指導及びオルガン奏者としてウィーン・フォルクス歌劇場ソリストと共演。またイタリア・ピアチェンツァ歌劇場にてオペラ「アイーダ」のアシスタント指揮者としてスカラ座合唱団を率いる。								
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む		出演者: 32 名 スタッフ: 3 名 合 計: 35 名				運搬		積載量: 0 t 車 長: 0 m 台 数: 0 台		

本公演・ワークショップの内容

本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュー ル)の目安	前日仕込		無		前日仕込所要時間			時間程度
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出	
	9時	9時～11時		13時～14時30分	10分	14時30分～15時30分	16時	
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。							
本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	6月		7月		8月		9月	
	10日							
	10月		11月		12月		1月	
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		10日	
公演に係るビジュ アルイメージ (舞台の規模や演出 がわかる写真)								
								
								
著作権、上演権等 の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続の要 否		該当あり		該当コンテンツ名		各歌唱曲	
	該当事項がある 場合	権利者名	各著作権者			許諾確認状況	採択後手続き予定	

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

一般区分・特別エリア区分共通				
No.3-①(実演芸術)				
別添		なし		
【公演団体名 新国立劇場合唱団 】				
ワークショップの内容	ワークショップのねらい	姿勢や顔の表情、呼吸方法から説明をして基本的な発声の指導を行い、わかりやすい解説、圧倒的な声量と高度な技術を手本として指導してまいります。通常の話し声とオペラの発声との違い、本公演で取り上げる校歌や愛唱歌を題材として自分自身が楽しく歌うこと、仲間と歌うことが楽しめるように指導を行います。自分が声を出すこと、仲間のパートを意識すること、「一緒にものごとを作り上げることの楽しさ」というような話題もあわせて行います。本公演の総合ワークショップが非常に大きな位置を占めるプログラムとなっておりますが、その導入となる事前ワークショップと仕上げとなる本公演に含まれる総合ワークショップにより、その後の校内行事でも「校歌」(愛唱歌)を楽しく歌うことが出来るようになっていただき、学校生活を生き生きと過ごせるような体験をしてもらうよう考えております。		
	児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	10名～1,000名
	ワークショップ実施形態及び内容	ワークショップは4名の声楽家とピアニスト1名で実施いたします。声楽家はソプラノ／アルト／テノール／バスが各1名で混声合唱を演奏する基本編成となっております。 前半は女性の高い声(ソプラノ)はオペラではどのような役を演じ歌唱するのか、それと対比する低い声(アルト)はどのような役柄を演じるのか。男性の高い声(テノール)は女性とどのような関係性を持つことがあるのか、低い声(バス)はテノールやソプラノとどのような関係で登場することが多いのか、などの解説を歌詞の内容を交えながら指揮者とやり取りをします。この後に新国立劇場合唱団が内外で高い評価を得ている「ベートーヴェン／交響曲第九番」を題材にして、合唱の仕組み・魅力をお話いたします。 後半は普段学校で歌っている校歌を用いて発声練習を行います。その場で軽く体操をしていただき体をほぐし、児童・生徒(もしくは先生)の指揮・伴奏で校歌を歌っていただきます。その歌唱にコメントをしつつ、プロの声楽家のようにきれいな歌声を出すには、という導入から「姿勢」・「呼吸」・「響き」というキーワードを重要なポイントとして、引き続き指揮者が生徒・児童に歌唱テクニックの向上をわかりやすく解説していきます。声楽家たちは児童・生徒の間に入っていき、声をかけて指導を行います。ポイントを復唱しながら再度校歌の演奏をしていただき、顔の表情、歌詞の重要性、校歌の意義をお話します。 本公演までポイントの復習を促すことで日常的に校歌演奏のイメージを広げてもらうようにします。 最後に混声合唱で親しみのある曲を演奏し、本公演での本格的な合唱演奏に期待していただくようにして終了します。		
	その他ワークショップに関する特記事項等			

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

一般区分・特別エリア区分共通
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 新国立劇場合唱団 】

記載方法等	例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。 ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。 ・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。 ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。 上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。 任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。 詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。 なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。
-------	--

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。									
会場の設置階の制限			条件なし		主幹引き込み電源容量			なし	A以上	
舞台設置面積			間口	14 m		奥行	8 m			
			高さ	3 m						
舞台設置場所			フロア対応	条件が合えば可		学校のステージでの対応		条件が合えば可		
搬入間口の広さ			幅	1.8 m		高さ	1.8 m			
遮光の要否			不要		緞帳の要否			不要		
ピアノの使用について			必ず使用する		ピアノを使用する場合の設置位置の指定			あり		
					ピアノを使用しない場合の移動の要否					
搬入車両(トラック等)の横づけ			横づけ要件なし		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離			0 m以内		
搬入車両の種類			条件なし		台数	0 台				
搬入車両の大きさ			車幅	0 m		車長	0 m			
備考										

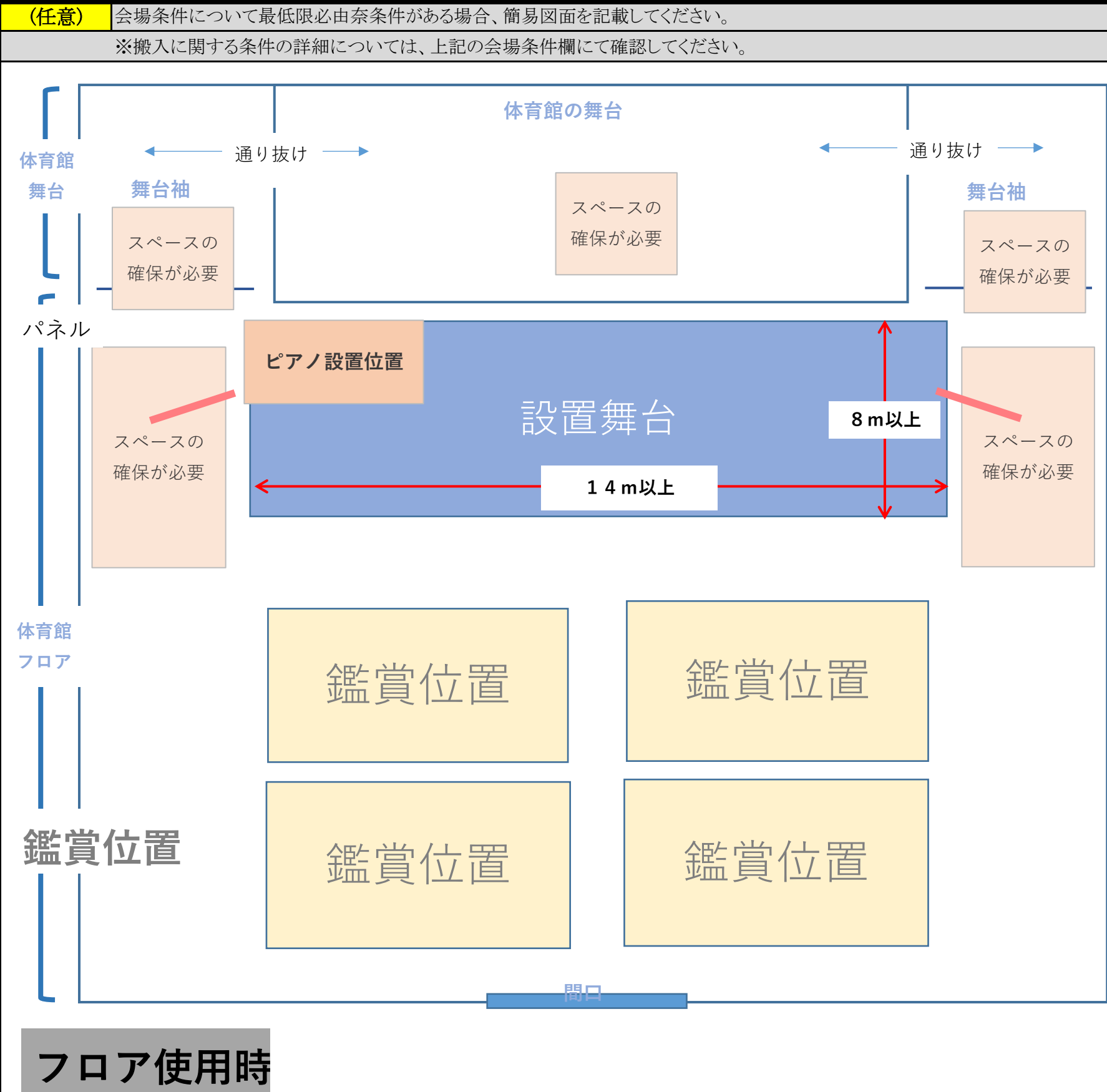
※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報	(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。					
	会場図面の提出要否						
	その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)						

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
本公演						
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1	ピアノの調律が必要です。	
	2	ピアノをフロアに移動をお願いします。(難しい場合は要相談)	
	3	学校備品として、ひな壇があればお借りいたします。	

会場簡易図面



別添	なし
----	----

【公演団体名	新国立劇場合唱団	】
--------	----------	---

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫	【本事業を通じて実現したいこと】	
	当財団は世界に問う優れた舞台作品を出すのみではなく、次代の担い手である子どもたちにこそ優れた舞台芸術を提供していくべきであるという姿勢を保持し、オペラでは「高校生のためのオペラ鑑賞教室」、バレエでは「こどものためのバレエ劇場」などの青少年向けの公演を手掛けており、演劇についても家族で観劇できる作品上演を実施しております。本事業においては、世界水準の芸術性を有する新国立劇場合唱団による公演を学校施設内で実施し、児童・生徒に高い水準の舞台芸術を直接体験させることを目的としています。特に、生徒児童がプロの音楽家と共に歌うことで、音楽芸術の魅力に触れ、自発性・達成感を育むことを目指します。また、劇場に足を運ぶことが難しい地域や学校においても芸術鑑賞の機会を提供し、地域社会における舞台芸術の普及・浸透を図ることも重要な目的としています。	
	【上記の実現に向けて、実施の工夫】	
	舞台装置を必要とする大規模な公演ではなく、声楽の原点である「合唱」を中心に据えることで、学校体育館等の限られた環境でも高品質の公演を実施できるようにいたします。新国立劇場合唱団という、国内外から高い評価を受ける芸術性を児童・生徒に直接届けます。そして合唱を通じて「聴く」「歌う」「共に創る」という体験を組み合わせ、鑑賞と参加を両立させるプログラム構成といたします。実施校や地域の教育関係者と連携し、カリキュラムや学校行事に組み込める柔軟な運営を行うことで、現場のご負担を軽減しつつ円滑に実施できるよう工夫いたします。	
	【学校との連絡調整について】	
	学校や教育委員会とのやり取りにおいては、専門用語や舞台技術に関する内容をできる限り平易な表現に置き換えるとともに、単なるメール連絡にとどまらず、実施校のご担当者様の状況に応じながら「電話」で補足説明を行います。これにより、学校側の負担及び迅速な問題解決防止を図ります。また公演準備にあたり、舞台スタッフが事前に実施校の体育館や会場を確認し、設営条件・動線・安全面をチェックすることで、当日の円滑な進行を担保いたします。	
	【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】	
	小中学生という成長段階に応じ、単なる鑑賞ではなく「共に声を出す」「一体感を得る」といった参加型要素を組み込みます。これにより、児童・生徒が主体的に関われる仕組みといたします。初めて舞台芸術に触れる児童・生徒に対しても、楽しみながら理解できるよう、演奏曲目や歌詞の背景説明を交えた導入を行います。また学校ごとの授業時間やご事情、行事スケジュールに配慮し、柔軟な運用を提供いたします。	
事業を適切かつ円滑に実施するための工夫	【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】	
	プロの音楽家と共に声を合わせ、舞台を創り上げる体験は、単なる一授業の出来事ではなく、日常の授業や学校生活の中でも自然に思い起こされ、学習意欲や協働する力、表現することへの前向きな姿勢につながってまいります。とりわけ合唱という形態は「呼吸を合わせる」「互いを聴き合う」ことで成立するため、児童・生徒の記憶に残りやすく、人間関係や社会性を育む上でも重要な学習となります。	

